

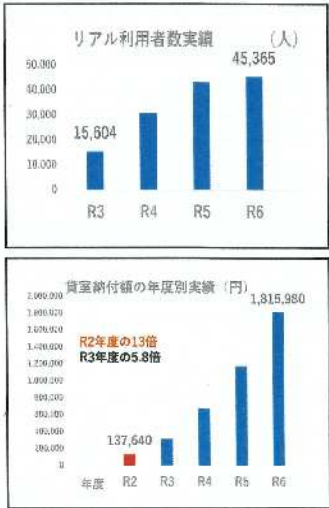
提案概要

(北九州市立ユースステーション 指定管理者)

団体名:里山を考える会

1 指定管理者としての適性について

(1)施設管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針
【理念】若者と共に進化する北九州市立ユースステーション ① 利用者に信頼され、交流や共創を生むサードプレイスの場づくり ② 利用者の将来のイメージ、選択肢となる心に届く探究学習・イベントの提供 ③ 学習、文化、交流活動を通して持続可能な社会を担う人材育成を目指します。 【基本方針】現指定管理 5 年間の運営実績を踏まえ、経験・知見等を礎にさらなる進化を図ります。安全、安心で居心地の良い場づくり、施設管理を継続するとともに、若者の自立を支援し主体的なアクションにつなげる「ステップアップステーション」の実現に向けて諸活動に取り組みます。
(2)安定的な人的基盤や財政基盤
【特定非営利活動法人 里山を考える会】 (人的基盤)「持続可能な社会の実現」をミッションとして未来を担う人材育成を行う専門集団 (財産基盤)収入 153,855 千円 純利益 2,110 千円 正味財産 51,348 千円(2024 年度)
(3)実績や経験など
① ユースステーション管理実績: R3 年度から指定管理 JV 代表団体として本施設運営管理を統括実施、 ■安全・安心で居心地の良い「サードプレイス」の場づくり ■年間 160 を超える多様で質の高いプログラム提供 (a)探究学習指導 (b)新規音楽プログラム「バンドバトル」導入 (c)独自のボランティア活動 (d)プレイスメイキング活動など) ■受付業務のデジタル化等、運営の改善・創意工夫により、 R6 年度まで入館者数(右図)、貸室利用率(および貸室料右図)、ボランティア活動登録者(R3 年度 15 人→R6 年度 153 人)、利用者満足度(95%以上)等の各主要指標において大幅な増加、改善を実現しました。 ② 関連実績:「タカミヤ環境ミュージアム」運営管理(指定管理 16 年間)、「生涯現役夢追塾」企画・運營業務(指定管理 11 年間)など、公共施設運営管理業務ならびに多様な分野、多世代にわたる人材育成業務で多数の実績を有しています。



2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み
(1)施設の設置目的の達成に向けた取組み
■利用者目標人数は、初年度:45,000 人、最終年度:47,000 人 を目指します。 (全利用者目標人数(館外イベント活動含む)は、初年度:50,000 人、最終年度:54,000 人) ■イベント・講座等は 160 件/年 の実施に取り組みます。

■イベント企画を充実させ施設有料貸室利用を促進いたします(市に対する納付金増加につなぐ)。

上記の目標達成のため、若者と共に進化するユースステーション実現に向けて、以下の7つの重点テーマに基づきアクションを展開するとともに、利用者サイドに軸足を置いて質の高いサービスを提供、利用者の新たな自己実現、自己変化を生み出すため、可能性追求、夢の実現に向けての支援を図ります。

- ①「プレイスメイキング」:これまでの安全・安心で居心地の良い場づくりを基盤に、さらに信頼され、交流・共創を生むサードプレイスを拡大し構築します。
- ②「SDGs 探究学習」:高校生への探究学習においては SDGs アワードの設立、企業と共に学ぶ現場体験型学習、小中高生に向けては環境問題などに取り組む新カードゲーム等新たなプログラムの導入を図ります。
- ③「ハブ・ステーション」:探究学習を企業と繋ぎ、さらなる進化を図ることで、学生と地域と企業をつなぐハブとして、プランからアクション(地域・企業との連携実践)へ展開しキャリア支援につなぎます。
- ④「音楽・ダンス」:高校生のエネルギーを受け止め、夢の実現を応援する場としてバンドバトル(R5 年開始)を北九州市のメジャーイベントに押し上げ高校生や先生方の熱い思いを広く発信します。
- ⑤「アクティブボランティア」:自ら企画・実施する能動的ボランティア活動で独自の活動を展開します。
- ⑥「利用者の心に響く企画」:パネル・映像展、AI、プログラミング講座など琴線に触れる企画を展開し、施設環境の中で新たな気づきを促し、自己発見の機会を提供します。
- ⑦「マナーの育成」:施設の共同利用を通して、社会のルールやマナーを守る指導教育を展開します。

■これらのアクションに基づく活動を通じて、自分を試せる「場」、自己発見の「場」、活躍の「場」として、「進学、社会、将来」にステップアップできる「ステップアップステーション」の実現を図ります。さらに若者の「夢の実現」、「地元愛の醸成」、「地元就職・定着」に繋がる支援を行い、若者の眠っている才能を引き出し不登校など減らす役割を担っていきます。

■これまでの協働実績を基にコムシティ内 10 施設、市内小中高、団体・企業等と共に展開します。広報活動においても高校訪問による延べ 375 校との連携実績を強化し、利用者目線で活動をマッチングさせ、本施設の認知度、ブランド化、小中高への広報誌を隔月発行するなど、集客の増加を図ります。

(2)利用者の満足度

- ① 毎月の施設アンケートやイベントアンケート配布、利用者が要望を記入できる「目安箱」、メッセージなどを書き込むボード「ユースの自由帳」、利用者による運営委員会の開催などを活用し、意見収集と改善を見える化を図ることで利用者満足度目標100%を目指します。
- ② 高校訪問・校長訪問:活動内容を学校へ幅広く広報し高校生、学校側の要望とマッチングさせる。新たな探究学習を学校に積極的展開:「机上のプランから企業との連携による実践アクション」を探究学習に取り入れ、精通したスタッフで充実させていきます。施設内でのクラブ化も実施します。
- ③ 音楽・ダンスで高校生と地域をつなぐ場づくり:高校生のエネルギーを受け止める場、自己発見を促し、社会性・自立性・主体性を育む場として、成功体験の機会を提供します。

【効率性】に関する取組み

(1)指定管理料及び収入

■DX 化による管理運営の効率化推進

これまでに構築した受付・予約業務デジタル化を基盤に、データの有効活用等さらなる DX 化を推進します。具体的には、①ネット予約システム拡充による利用者負担軽減、②紙ベース(アナログ)受付対応からバ

ーコード読み取り式システムを導入改善(電子化)への移行と、取得データの情報分析による効率的な要員配置対応、サービス提供、営業/広報活動での効果的な活用を通じてコスト削減を図ります。

■事務、プログラム企画機能等を一部本部で担うことで経費を削減、現場重視の職員配置を行います。

■音楽専門スタッフの配置運営、探究学習専門スタッフを配置し高校と連携(実績延べ 375 校訪問)と企業/大学連携(実績延べ 93 団体)のネットワークをさらに拡大、■多くの関係先との協働で費用を低減し事業展開、■広報資料の内製化で年間 160 を超えるイベントに対応し広報コスト削減を行います。そのイベント効果で集客増と有料貸室利用者増を図ります。

(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性

これまでの本施設の運営実績で得た知見・ノウハウに基づき、実現可能な収支計画を策定しました。今後の諸経費の変動等には、①DX化による運営効率化と要員配置適正化、②設備管理・広報資料制作等業務の内製化、③運営委員会による PDCA サイクル確立等を推進することでコスト削減を推進し、施設運営、提供サービスの質の維持向上を図りながら、効率的かつ適正な管理運営を実施します。

【適正性】に関する取組み

(1) 管理運営体制など

■所長、副所長、運営スタッフ 3 名を配します。それぞれの役割については、専門性、豊富な経験を有するスタッフを確保します。特に、総合的なプロデュース 1 名、音楽指導専門 1 名、探究指導専門 1 名、システム構築専門 1 名、海外イベント指導 1 名など成果に繋がる人材確保と配置を行います。DX 化された管理情報を活用し、無駄のない効率的スタッフ配置、運用を行います。また、外部の有識者、各団体代表から構成するアドバイザーリー委員会を設置し助言、指導を仰ぎます。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

■これまでに構築した①個人情報、②ハラスメント防止、③文書管理、④経理、⑤物品購入、⑥就業規則、⑦給与など規定・マニュアルを適切に更新します。また、■安全管理、危機管理/、防犯防災マニュアルの整備管理実行の徹底、■施設内のバリアフリー化の改善、■パンデミック対策の徹底、■危機管理研修を最優先に、人権研修、コミュニケーション研修などを実施し、資質向上と管理・運営の実効性を確保します。

(3) 地域貢献・社会貢献

コムシティ内 10 施設、地域・学校・企業の21団体と協働・連携で地域活性化・社会活動に貢献します。

■①探究学習、②音楽活動、③アート活動、④職場体験活動⑤プログラミング、AI 活動、⑥ボランティア活動、⑦街おこし活動、⑧企業、団体、介護施設、障がい者施設、市民センター等との連携を拡充します。

■活動を通して、若者のキャリア支援、夢の実現、地域活動への参画、多世代交流支援で若者自らの可能性追求など人材育成を目指す。あわせて施設若手スタッフ、アルバイト大学生の若手人材育成も行います。

提案額 (千円)

令和 8 年度	52,806 千円
令和 9 年度	52,806 千円
令和 10 年度	52,806 千円
令和 11 年度	52,806 千円
令和 12 年度	52,806 千円